

V. 特記事項

本学は社会の保健医療福祉に貢献することを学是としており、国内に限らず国際的な視野の基に特色ある活動を行っている。両学部とも特にベトナムとの交流に重点をおき、様々なプロジェクトをすすめていることは特記に値する。以下、両学部におけるベトナムとの最近の交流状況を記す。

(1) リハビリテーション学部

・海外地域リハビリテーション実習

本学部では、海外地域リハビリテーション実習を単位認定している。令和5(2023)年度は、学生15名と引率教員2名がベトナムのツーザー病院平和村・フンブン総合病院・孤児院・障害児施設を訪問した。

・JICAプロジェクトでのアドバイザー派遣

国際協力機構(JICA)中小企業支援型事業に採択されたウエルコンサル株式会社「ベトナム国南部におけるリハビリテーション人材育成プログラム導入に関する案件化調査」のプロジェクトアドバイザーとして本学講師を派遣している。令和5年(2023)6月1日～令和6(2024)年3月31日の期間に開発課題分析、現地機関(病院・施設・大学機関)との協議検証などを行った。また、ベトナムの大学教員を受け入れ、本学の教育・研究の視察等に協力した。

・国際交流にかかる講義・講演への講師派遣

青年海外協力協会(JOCA)からの依頼により、青年海外協力隊帰国隊員である本学講師をJICA国際協力出前講座の講義に派遣している。令和5(2023)年は中高等学校を含む13か所でベトナムにおける協力を中心に講義した。

(2) 看護学部

・さくらサイエンスプログラムにおける交流

本学部准教授が提案したベトナムとの交流プログラムが科学技術振興機構(JST)さくらサイエンスプログラムに採択されており、ベトナムの大学生、教員の招聘を含む以下の内容について継続的に活動している。

令和元(2019)年度:グローバル時代に考える災害看護:日越看護学生の交流を通して。

令和5(2023)年度:ベトナム人学生と共に考える:これからの認知症看護。

・科学研究費に基づく交流

ベトナムホーチミン市にあるPHAM NGOC TACH医科大学の研究者5名を招聘し、共同調査をおこなった。すなわち、日本で働くベトナム人看護師、介護福祉士およびその候補生が認知症や認知症者をどのように認識しているのかを調査した。その結果、上記医療人が日本において多くの専門的知識を修得していることが明らかになった。科学研究費のテーマは以下の通りである。

令和元(2019)年—令和5年(2023):日本で働くベトナム人看護師、介護福祉士、その候補生に対する有効な認知症教育の検討。